

令和4年度 京都市立北野中学校「学校いじめの防止等基本方針」

1 総則

(1) 目的

いじめは、いじめを受けた子どもの教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである。初期段階のいじめや、解消したいじめ事案についても、学校が組織として把握し（いじめの認知）、見守り、必要に応じて指導し、解決につなげることが重要である。

本方針は、子どもの尊厳を保持する目的の下、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）第13条、京都市いじめの防止等取組指針（平成29年9月改定）に基づき、本校のいじめ防止等の取組の基本的な方向、取組内容を策定するものである。

(2) 基本理念

- ①全ての生徒が「正義感や公正さを重んずる心」「生命を大切にし、人権を尊重する心」「他人を思いやる心や社会貢献の精神」「道徳的価値を大切に作る心」等に加え社会の一員としての確かな規範意識を身に付けるとともに、他者へのいじめを行わないことはもとより、生徒自身がいじめの防止等の取組の当事者として、その解決に向けた主体的、積極的な取組を行うことができるように育まれること。
- ②いじめの問題の解決に当たっては、いじめを受けた生徒の心に寄り添った対応を、いじめを行った生徒に対しては、単に表面的な言動のみをとらえるのではなく、そのいじめを行うこととなった背景も踏まえた対応を、迅速かつ的確に行い、再びいじめを行うことのないように対処すること。
- ③いじめを受けた生徒の保護者はもとより、いじめを行った生徒の言動に困りを感じている保護者についても、相談体制の整備をはじめ、必要な支援が行われること。

(3) いじめの定義 *京都市いじめの防止等に関する条例第2条

子どもに対して、当該子どもが在籍する学校に在籍している等当該子どもと一定の人的関係にある他の子どもが行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった子どもが心身の苦痛を感じているもの（当該子どもが心身の苦痛を感じていなくても、他の子どもであれば心身の苦痛を感じる蓋然性が高いものも含む。）をいう。

(4) いじめの解消の定義 *京都市いじめの防止等取組指針（平成29年9月改定）

謝罪とその受入れをもって、いじめが解消したと安易に判断するのではなく、解決したと思われた事案が再発したりすることのないよう、注意深く観察する必要がある。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して解消しているかどうかを判断するものとする。

【いじめに係る行為が止んでいること】

いじめを受けた生徒に対する心理的または物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。教職員は、相当の期間が経過するまでは、いじめを受けた生徒・いじめを行った生徒の様子を含め状況を注視し、いじめ対策委員会でその状況を共有する。

【いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じていないこと】

いじめを受けた生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。いじめを受けた生徒本人に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

なお、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、教職員は、当該いじめを受けた生徒及びいじめを行った生徒について、日常的に注意深く観察する。

2 いじめ対策委員会

学校におけるいじめ防止等の対策のための組織

いじめ不登校対策委員会

〔実施予定〕 月 1 回（※緊急に対応を要する場合は、この限りではない。）

〔構成員〕 学校長 教頭 生徒指導部長 補導主任 各学年主任 養護教諭 教育相談主任
スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー

〔内容〕

- ・各学年の生徒の動向を情報交換し、多角的に生徒理解を行い指導に生かす。
- ・定期的な未然防止対策・早期発見対策を勘案・検討し推進する。
- ・生徒指導委員会での情報交換に基づき、必要に応じて組織的な対応を検討し推進する。
- ・いじめとして対応すべき事案か否かを判断する。判断材料が不足している場合は、関係者の協力のもと、事実関係の把握を行い、いじめであると判断されたら「組織」で問題解決まで被害・加害双方に対し指導・支援を行う。
- ・いじめに関する情報を教職員個人で抱え込んだり、対応不要であると判断したりせず、情報と共有化を行い、組織的かつ実効的にいじめ問題に取り組む。

〔組織全体の行動計画〕

- ・定例の会に生徒会活動・補導報告・スクールカウンセラー報告・保健室からの報告。
- ・各学年報告を中心に報告会を行い、学校基本方針に基づいて全員で検証する。
- ・全校集会にて、生徒に方針や役割などを説明し、構成員の周知を行う。
- ・S S Wが関係機関のつなぎ役となって情報提供や調整を行う。保護者や教員を支援する。

生徒指導委員会

〔実施予定〕 週 1 回

〔構成員〕 学校長 教頭 生徒指導部長 補導主任 各学年補導係 養護教諭

〔内容〕

- ・各学年の生徒の動向を情報交換し、多角的に生徒理解を行い指導に生かす。
- ・問題行動に対する未然防止対策・早期発見対策を勘案・検討し推進する。
- ・問題行動を起こした生徒への支援・指導を検討し実践する。
- ・いじめとして対応すべき事案か否かを判断する。判断材料が不足している場合は、関係者の協力のもと、事実関係の把握を行い、いじめであると判断されたら「組織」で問題解決まで被害・加害双方に対し指導・支援を行う。

3 学校いじめ防止プログラム

（１）学校におけるいじめ防止

①全教職員へのいじめ防止に対する基本的な考え方の共有と徹底

- ・生徒指導における自己指導力の育成をねらいとして、「自己存在感を与える」「自己決定の場を与える」「共感的人間関係を基盤とする」を意識することが、いじめ防止につながることを職員会議や

研修などで研鑽していく。

- ・学校基本方針の意義や内容を教職員に徹底し、その中核的内容として年間の学校教育活動全体を通じた体系的な取組の計画を定める。
- ・いじめ防止対策の取組状況等を学校評価に位置づけ、点検・評価を行い、必要に応じて改善を行う。

②学習環境の整備

- ・一般的に学校評価アンケートなどで「教室内はいつも整理整頓され、学習に適した環境が保たれている」かの問いに、できているという回答が多いクラスほど、いじめなどの被害率・見聞率が低いという結果がある。期限を過ぎた掲示物が貼りだされていたり、荷物が机の周りに散乱していたりすることのないよう学級担任・教科担任が教室環境に配慮する。
- ・教育環境への配慮のための観察は、生徒に対する細かい観察につながり、この観察が様々な問題が顕在化する前に、細かな変化からその芽に気づき摘み取ることにつながる。細かな気づきをもとに生徒とコミュニケーションをとり、生徒の困り・悩みの相談しやすい環境を作る。

③授業改善の充実

- ・京都市独自の「教育課程指導計画（京都市スタンダード）」に基づく授業計画を作成し、その計画のもと指導を徹底し、生徒がわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業を行う。特に「言語活動の充実」「コミュニケーション能力の育成」に重点を置いた学習内容や学習形態を工夫する。
- ・各学年で指導すべき基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、すべての生徒に学習基盤の定着を図る。そのために日常的に学習規律（学びの作法）の確立に努め、生徒の特性を把握し効果的な学習形態を工夫することで生徒が安心して学習に臨める環境づくりを行う。公開授業週間、校内授業研究日、支部授業研修会などを通じて生徒がわかる授業づくりに努める。

④道德教育の充実

- ・生徒の道德的実践力を育むため、道德教育推進教師を中心に校内体制を確立し、保護者や地域の方々の参加・協力を得るなど、家庭や地域社会との共通理解、連携を深め、道德の授業はもとより教育活動全体を通じて道德教育の充実をはかる。そのためにこれまで行っている道德の授業のカリキュラムを大切にしながらもいじめの防止対策の基礎となる道德的資質を培うため特設年3回、生徒の発達段階に応じた教材を用い指導・啓発を行う。また、授業参観等で道德の授業を行い、生徒・保護者・地域とともに集団の一員としての自覚や態度、資質や能力を育む。

⑤体験活動の充実

- ・職業体験やボランティア活動等の体験活動や教科・総合的な学習の時間、特別活動と道德の時間との関連を図り、道德的価値の自覚を深める指導の充実を図る。

⑥生徒が自主的に行う活動の支援

- ・生徒会活動や生徒の主体的・自発的な活動を重視するとともに、集団生活や集団活動の楽しさを実感し、集団の一員としての役割を担い、責任を果たす中で、自分への自信を培い、自己有用感を高め自己実現につなげる指導を進める。

⑦生徒同士の絆づくり

- ・本校の部活動に入部している割合は非常に高く、校内でクラス以外の集団にかかわりを持つ生徒が大半である。会議の日程や時間を調整することで、これらの活動等に直接指導できる時間を確保し、集団のあるべき姿や正しい上下関係を教え、生徒同士の絆をより深く強固なものにしていく。

⑧生徒の啓発

- ・京都市中学校生徒会宣言を様々な機会を捉え、生徒に周知し、生徒自らが規範について考え行動実践できる力を育てる。そのために京都市中学校生徒会宣言にもとづく生徒会アンケートを実施し、生徒の実態を踏まえた自主的・自発的な生徒会活動を立案し推進できるよう指導する。

⑨その他

- ・学校評価アンケートを行い、いじめ防止対策推進法の趣旨や国立教育政策研究所の報告を踏まえたうえで結果を分析し、成果と課題を周知するとともに課題解消のための対策を講じる。

(2) いじめの早期発見のための措置

- ①日常の生徒観察や随時の教育相談、学級日誌や教科担任との情報交換などあらゆる機会を捉えて生徒のささいな変化に気づき、生徒の実態把握に努める。そして、その情報を確実に共有し、その情報を分析し速やかに対応する。情報伝達・共有に関しては口頭だけでなくメモ等を活用して確実に行う。また、保護者や地域との連携を細かく丁寧に行い生徒の変化を早期に発見する。今まで当たり前だと思っていたことを点検し、意識的・積極的に活用していく。
- ②日常の生徒観察に加えいじめに関するアンケート、クラスマネジメントシート（わたしのクラスアンケート わたしの毎日アンケート）を複数回実施し、生徒の実態把握を多面的に行い、諸課題の早期発見に努める。また、結果から背景をさぐり早期の支援・指導を行う。
- ③日常の随時の教育相談はもちろんのこと年2回の教育相談週間を設定し、前述のクラスマネジメントシート等生徒を多面的に観察・理解できるツールを活用して構造的な面談の中で生徒の育ちや困りを傾聴し、ともに伸長・改善する方向を探る。保護者や地域、関係機関の支援が必要な場合は、学年・学校として協議し適宜適量な支援・指導を行う。

(3) いじめが起こった時の措置及び再発防止に向けた取組

- ①万が一、いじめの発生が疑われる場合、組織的かつ実効的にいじめ問題に取り組む。そのためには、正確な状況を把握することは必須であり、丁寧な事実確認・聞き取りの徹底、いじめに関する情報を教職員個人が抱え込まず、いじめ対策委員等の組織での情報の集約・共有をする。もちろん、いじめを受けた生徒の保護・支援は言うに及ばず、いじめを行った生徒、保護者等への指導、周囲の生徒への指導も被害生徒に十分配慮しながら行う。事案の大小にかかわらず教育委員会には随時報告を入れ、指導を仰ぎながら解決に向け取り組む。上記用に応じて関係機関（警察・児童相談所）との連携も視野に入れる
- ②いじめやその疑いを把握した時の校内での情報共有及び対応

前提となる基本事項

『学校いじめの防止等基本方針』

- 学校いじめ防止プログラムの策定
- 教職員，児童生徒，保護者，地域への周知
- 取組状況を学校評価に位置付け，点検・評価を行い，必要に応じて改善

『いじめ対策委員会』

- 担任（担当者）といじめ対策委員会との連携方法の 確認・周知
- 臨時の委員会開催時の手順確認・周知
- 児童生徒，保護者，地域への周知
- いじめの認知・解消の判断について確認

未然防止の取組

- ・学習環境の整備
- ・道徳教育・人権教育の充実
- ・児童生徒同士の絆づくり
- ・授業改善
- ・児童生徒が主体的に行う活動や体験活動の充実

予 防

いじめ（その疑いがあるものを含む。以下同じ）の情報を把握

- ・教職員，児童生徒，保護者，地域，その他からの情報から
- ・アンケート調査等の情報から 等

見逃しのない
観察

組織（いじめ対策委員会）で情報共有し，事実関係を把握する。

手遅れのない
対応

【いじめ対策委員会で共有】

- まず，いじめ対策委員会で情報共有を行い，聴き取り・指導・支援体制を検討。

【事実確認】

- 複数教職員で対応し，「いじめ」の認知は，表面的・形式的に行わず，組織的に判断する。
- いじめを受けた児童生徒と，いじめを行った児童生徒を個別で聴き取る。
- 何があったのかについて丁寧に事実確認を行う。
- 聴き取った内容は，時系列で事実経過を確認・整理して，記録をまとめておく。

管理職のリーダーシップの下，学校としての対応方針を決定する。

〔認識の共有化・行動の一元化〕

心の通った
指導

【児童生徒への指導・支援】

- いじめを受けた児童生徒は「絶対守る」「必ず解決する」という学校の 姿勢を示す。
- 登下校，休み時間，清掃時間等，隙間の時間をつくらず，被害児童・生徒を見守るとともに，必要に応じてＳＣ，ＳＳＷ，パトナ等との連携を図る。
- いじめを行った児童生徒に対し，二度と繰り返さないよう，自らの非を深く自覚させ，**再発防止**に向けた指導を行う。
- 周囲の児童生徒に対し，いじめを他人事ではなく，自分たちの問題として捉えさせる。

【保護者への連絡・家庭との連携】

- 担任（担当者）をはじめ，つながりのある教職員を中心に，速やかに，関係児童生徒（加害・被害とも）の家庭訪問等を行い，事実関係と今後の指導方針を説明し，必要な連携を求める。

【教育委員会への報告・連携】

- 重大事態の疑いがある等，いじめ事案の内容により，直ちに教育委員会へ報告し，連携して対処する。

【謝罪の場の設定】

- いじめを受けた児童生徒・保護者の意向を十分尊重し，原則，関係児童生徒，保護者が一堂に集まり 謝罪をする場をもつ。

【関係機関との連携】

- 必要に応じて警察，児童相談所等と連携して対処。

「いじめの解消」まで継続的な指導や支援の実施

【学校全体での継続的な指導・支援】

- 少なくとも以下の２つの要件が満たされるまで支援を継続する。
 - ①いじめに係る行為が**少なくとも３か月間**止んでいること（救済）
 - ②いじめを受けた児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと（回復）
- ※面談等により確認し，解消判断は個人ではなく組織（いじめ対策委員会）で行う。

- ・校則の遵守を指導し、携帯端末の校内への持込と使用の禁止を学校・保護者が連携してすすめる。
- ・京都市教育委員会・京都府警本部と連携し「非行防止教室」を実施する。インターネットや携帯電話の利用について、危険性はもちろんのこと問題行動全般に関する未然防止の啓発・指導に努める。
- ・個人情報の漏洩や他人へ中傷・誹謗の書き込みについて実態把握を行い、問題掌握時には適切な指導を行う。
- ・日常の生徒同士の関わりの中に適宜介入し、生徒のソーシャルスキルの向上に努め、生徒一人一人の居場所づくりに努める。
- ・教科指導（社会科、技術・家庭科）の中で情報リテラシーを涵養する。
- ・PTA活動や地域生徒指導連絡協議会、関係諸団体の活動を通じて保護者や地域への啓発活動を行う。

④「いじめ解消」の定義を踏まえた見守り及び再発防止に向けた取組

基本理念でも述べたように、謝罪とその受入れをもって、いじめが解消したと安易に判断するのではなく、解決したと思われた事案が再発したりすることのないよう、注意深く観察する必要がある。教職員は、相当の期間（3か月以上）が経過するまでは、いじめを受けた生徒・いじめを行った生徒の様子を含め状況を注視し、いじめ対策委員会でその状況を共有する必要がある。なお、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、教職員は、当該いじめを受けた生徒及びいじめを行った生徒について、日常的に注意深く観察する。

学校体制として、指導の振り返りを行い、事実関係の解明と原因の追究、そこから出てきた課題をもとに今までの指導方針の見直しを行う。さらに、加害生徒を含む全校生徒への丁寧な個別・全体指導を行う。

（４）教職員の資質向上

- ①日常的に生徒の動向の情報交換を行い、教職員相互の観察視点の補完を行うとともに観察視点の多角化に努める。
- ②校内研修会でいじめ防止対策に関する研修を実施する。
- ③毎学期に生徒指導三機能の点検（チェックシートの実施）を行い、教職員相互で課題の改善に努める。

4 保護者・地域、関係機関との連携

- ①「子どもを共に育む京都市民憲章」を保護者・地域に広く周知し、共に子育てを進める。
- ②機会を捉えいじめ防止対策推進法の趣旨を保護者・地域に広く周知し、いじめの解消が保護者の理解、協力なしに進まないことの理解を広く求める。具体的には、『いじめられていないか？』と同等、『他の子どもをいじめていないか？』の家庭・地域での声かけを生み出していけるようにする。

5 重大事態への対処

重大事態への対処については、

【第１号】いじめにより当該学校に在籍する、生徒の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められるとき

【第２号】いじめにより当該学校に在籍する、児童生徒が相当の期間（30日を超える）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認められるとき

を踏まえ、教育委員会を通じて重大事態が発生した旨を市長に報告するとともに、その事態への対処及び同種の事態の発生を防止するため、教育委員会の指導及び支援を得つつ、本校が調査主体となる場合

には本校の下に組織を設け、質問紙の使用その他の適切な方法により事実関係を明確にするための調査を行う。また、いじめを受けた児童生徒及びその保護者に調査に係る事実関係等その他の必要な情報を適切に提供する。

6 年間計画（予定）

- ・いじめの防止等，生徒の健全育成に向けた取組を次掲の計画に基づき実施する。ただし，新型コロナウイルス感染拡大防止の対応等により，変更の可能性があります。

月	対策会議（いじめ対策委員会等）の開催 や教職員の資質能力向上（校内研修）の 取組	未然防止の取組	早期発見・積極的認 知の取組	保護者等への発信 関係機関との連携
4	◇いじめ対策委員会① 「校内体制や組織的対応の共有」 「児童・保護者への広報について」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆職員会議 「学校いじめの防止等基本方針の共有」 ◆校内研修会① 「年間計画と役割の明確化」 「いじめ防止プログラム PDCA サイクルの 確認」	・入学式 ・学級開き ・全校集会で生徒に説明 「いじめ対策委員の紹介」 ・新入生を迎える会 ・学級目標決め ・新入生オリエンテーション ・道德授業	・前年度の記名式アン ケート・クラスマネ ジメントシートに ついて確認と共有	・入学式で保護 者啓発 ・部活動参観 ・PTA 運営委員会 ・家庭訪問 ・進路保護者会 ・教育課程説明 会
5	◇いじめ対策委員会② 「未然防止に向けた取組の確認」 「クラスマネジメントシートの実施に向け て」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆校内研修会② 「いじめに関して，気になる生徒の共有」	・憲法月間の講話	・第1回クラスマネジ メントシートの実 施，学年集約と共有 ① ・教育相談の実施①	・PTA 総会 ・学校運営協議 会 ・地生連会議 ・保護者説明会 ・部活動参観
6	◇いじめ対策委員会③ 「クラスマネジメントシート・教育相談の結 果の共有と対策」 「記名式アンケートの実施に向けて」 ◇臨時いじめ対策委員会 ← 「情報の共有と組織的対応」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」	・生徒総会 ・道德授業 ・小中部活動体験	・第1回記名式いじめ アンケートの実施， 学年集約と共有①	・休日参観 ・道德公開授業 ・学級懇談会
7	◇いじめ対策委員会④ ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 「夏季休業中の生活について」	・夏季休業を迎えるにあたっ ての心構え ・学年集会 ・夏季学習会 ・3年 修学旅行 ・1年 校外学習 ・1年ケータイ教室		・三者懇談会 ・家庭地域教育 講座

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年自転車教室 ・ 2 年防煙教室 ・ 3 年非行防止教室 ・ 小中児童生徒会交流会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価の実施 ・ 地域パトロール
8	◇いじめ対策委員会⑤ 「いじめ防止プログラムの見直し① PDCA サイクル」 ◇生徒指導委員会 「夏休み明けの生徒の様子について」 「不登校生徒への関わりについて」 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆校内研修会 「生徒指導三機能の点検・改善」 ◆よんきゅう小中合同研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会リーダー講習会 ・ 学校祭に向けての取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み明けの生徒の様子を学年で共有、組織的対応の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域パトロール
9	◇いじめ対策委員会⑥ 「学校評価の実施に向けて」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭に向けての取組（集団づくり） ・ 学校祭 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭
10	◇いじめ対策委員会⑦ 「学校評価の結果について① PDCA サイクル」 「記名式アンケートの実施に向けて」 ◇臨時いじめ対策委員会 ← 「情報の共有と組織的対応」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年 チャレンジ体験 ・ 生徒会役員選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回クラスマネジメントシートの実施、学年集約と共有① ・ 第 2 回記名式いじめアンケートの実施、学年集約と共有② ・ 教育相談の実施② 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会 ・ 地生連会議 ・ 進路保護者会 ・ 地域パトロール
11	◇いじめ対策委員会⑧ 「学校評価を受けて改善策を考える」 「年間の取組の見直し①」 「クラスマネジメントシートの実施に向けて」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳授業 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学説明会 ・ 授業参観
12	◇いじめ対策委員会⑨ 「アンケート調査・クラスマネジメントシート・教育相談の結果の共有」 「いじめ防止プログラムの見直し② PDCA サイクル」 「次年度の基本方針の見直しと作業」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆校内研修会 「生徒指導三機能の点検・改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権講話 ・ 人権学習 ・ 冬季休業を迎えるにあたっての心構え ・ 学年集会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 三者懇談会 ・ 学校評価の実施

1	◇いじめ対策委員会⑩ 「9月～12月のいじめ事案の経過の共有」 「クラスマネジメントシートの実施に向けて」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆年間反省①（部会ごと） 「今年度の反省と来年度への課題の共有」			・家庭地域教育講座 ・地生連会議
2	◇いじめ対策委員会⑪ ← 「クラスマネジメントシートの結果から」 「学校評価の結果について② PDCA サイクル」 「次年度の学校いじめの防止等基本方針の確認」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆年間反省②（全体） 「今年度の反省と来年度への課題の共有」	・小学生授業体験	・第3回クラスマネジメントシートの実施，学年集約と共有③	・学校評価の実施 ・学校運営協議会 ・PTA 決算総会
3	◇いじめ対策委員会⑫ 「学校評価の結果について② PDCA サイクル」 「いじめ防止プログラムの見直し③ PDCA サイクル」 ◇生徒指導委員会 「各学年気になる生徒の情報共有」 ◆職員会議 「年間を通してのいじめ事案の経過の共有」 「来年度のいじめ防止基本方針について」	・3年生を送る会 ・卒業式 ・学級のまとめ ・学年集会	・記名式アンケートの保管 ・クラスマネジメントシートデータ保管	